



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

第三十九号

大暑たいしょ

七月二十二日

伊勢神宮奉納全国花火大会

夏休みが始まりました。こればかりは子どもたちがうらやましい限りですが、伊勢の子どもたちにとって夏休みの最初の楽しみは「宮川の花火」。宮川河畔で行われる花火大会です。

今年七月十九日。全国に先がけて開かれる花火大会は、秋田県から鹿児島県まで全国各地から選抜された花火師たちが神宮に奉納し、その年の花火大会の安全を祈願するものなのです。

そして伊勢の花火は、花火師たちがその出来ばえを競う競技花火大会。選りすぐりの花火師たちが日ごろの研鑽けんさんの成果を披露するとあって、一発一発のレベルが高いことで知られます。

打ち上げ花火の部に出展できるのは、一業者わずか二発といえます。従来「割玉わりたま」といわれる直径約三十センチの十号玉と、キヤクタターの形などを描く一風変わった創造花火の五号玉を一発ずつ打ち上げます。実際に審査されて、優勝、二等、三等、佳作が発表されます。茨城、秋田、山梨、群馬、長野の煙火店が毎年入賞しています。

花火は日本古来のものと思いますが、十六世紀の鉄砲伝来の後に伝わったとされ、江戸時代に盛んになりました。日本人で初めて花火を見たのは徳川家康といわれています。隅田川の川開きに花火を打ち上げたことから、海開き、川開きに欠かせない夏の風物詩ともなりましたが、伊勢の花火は、昭和二十八年の第五十九回式年遷宮を記念して始められました。神さまに願いを込めて打ち上げられる宮川の花火。今年で五十六回を数えます。

文 千種清美

